

目標達成計画

作成日:平成29年 3月14日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	昨年、初めての芋煮会を開催し、沢山の地域・家族の方の参加があったが、地域の方が先に立って実行して頂いた反省がある。地域の方との交流を深める為には、まず施設側から交流を図る。準備段階から利用者様の参加が必要だった。	地域交流の機会となる芋煮会の継続により、芋煮会が地域に浸透し、参加者が増え、利用者様に地域の一員として生き生きと生活して頂ける様に支援させて頂く。	①10月上旬(土・日)予定→(金時祭りの前週) ②9月下旬～・・・地域へのチラシ作成 ③地域の方、金時職員で協力してチラシを配布 ④準備段階(チラシ作成・配布・当日料理)で利用者に参加を促し、生き生きとした生活を図る	9ヶ月
2	48	利用者様が自分の楽しみを会話の中で話される事が多いが、その思いを全て実行し生きがいに繋がる迄に至っていない事も有る。職員が個々の利用者様に寄り添い、対応して実践へ繋げる必要がある。	個々の利用者様に役割を持って頂く事によって楽しみを見出し、張り合いや喜びの有る日々を送る事により、生活・精神面にも活性化を図る事が出来る。	①居室担当者が個々の利用者様の出来る事を一緒に探し、成功体験を多くして頂ける様に支援 ②役割を持ち、生活が出来る様に支援させて頂く ③ホール内のボードに毎日日付を書いて頂く	12ヶ月
3	13	職員が業務に追われ、ゆとりを持って利用者様への対応が出来ていない時がある。利用者様が常に喜びを持って、穏やかな精神状態で生活を送れるように支援出来る能力を身につける必要がある。	利用者様間で交流・対話が出来やすい環境作りをし、利用者様間で楽しい時間が過ごせるように配慮させて頂くと共に、職員一人一人の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会を多く作り、職員の介護技術の向上を図る	①職員は業務の段取りを考え、常に利用者様優先で業務を遂行していく ②早め早めの対応で、気持ちにゆとりが持てる様にする ③利用者様にはゆったりとした気持ちで対応	12ヶ月
4	33	本人様・家族様の意向を踏まえた上で、施設は医療・家族様と連携しながら終末期を迎える環境を作れるかどうか職員は不安を持っている。看取りに向けての知識を持つ必要がある。	医療・家族様の連携の下、定期的に見取り研修をしていく事により、又家族のように暮らす事により、自然の流れで職員の不安が軽減され、看取りを受け入れる事が出来る様になる。	①毎月の職員会議で見取り研修を随時する ②訪問看護の看護師を講師に招き研修をする ③利用者様の平常時の状態把握をさせて頂く ④異常時の早期発見・対応をさせて頂く	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。